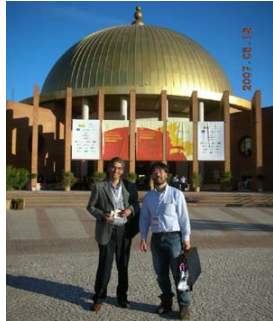


Wild fire conference at Sevilla, Spain (14-17th May, 2007)

森林火災の国際学会でシベリアタイガでの火災実験の成果を発表しました。



↑ 会議場前にて
Dr. Goldammerさんの
基調講演 →

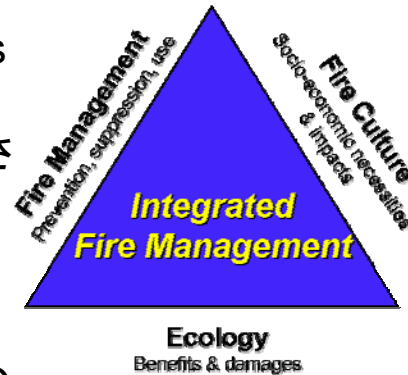


4th Wildfire Conferenceは、森林を含むWildlandの火災について、防火・消防技術、生態学、社会・経済学など多方面の研究者が一同に会する国際学術会議でした。

昼食で同席した参加者の話では、今回の会議の特徴は「気候変動」の視点をもつ発表が増えたことだそうです。第一回目の会議では、防火・消防に関わる内容が多数を占めたとか。

Fire Ecologyセッションの基調講演では、Dr. Myersさんが、「Ecology—an integral part of fire management in cultural landscapes」と題して発表されました。今後の火災管理において重要となるコンセプトの提案と説明、理解が不足している課題の整理など、今後への方向付けがなされました。

全体から見ると、EcologyやBiogeochemistry分野の研究発表が手薄な印象を受けました。



おまけ①: 乾燥した空気と厳しい日差し、この地に適応した木々たち、地中海性の初夏の気候を体感。キリスト教とイスラム教が融合した特有の文化を醸しだすカテドラルを見学



野外展示場では消防車やヘリコプターなど、消防関連のブースでは消火飛行機の模型、消防用ポンプ、防火熱服などを見ることができました。



おまけ②: 乗り換えのパリで一泊、オペラ座の前にて